

志賀原子力発電所 1号機 定格熱出力一定運転実施に伴う発電設備の健全性評価書の提出について

平成15年2月5日
北陸電力株式会社

当社は本日、経済産業省の通達「定格熱出力一定運転を実施する原子力発電設備に関する保安上の取扱い」（平成13年12月17日制定）に基づき、「志賀原子力発電所第1号機 定格熱出力一定運転実施に伴う発電設備の健全性評価書」を経済産業省原子力安全・保安院に提出しました。

定格熱出力一定運転は、安全性を維持しながらエネルギーの有効利用が可能なこと、ならびに二酸化炭素の排出量を削減し地球温暖化の抑制にも貢献できることから、このたび当社においても、志賀原子力発電所1号機での実施に向けた諸手続きを開始したものです。

今後、国により健全性評価書の内容が確認され、必要な準備を行った後、定格熱出力一定運転を開始する予定です。

< 参考 >

定格熱出力一定運転とは：

原子炉熱出力を、原子炉設置許可において認められた定格値で一定に保ったまま運転する方法で、電気出力は海水温度が低い冬場で最大約3%、年間平均約2%増加します。この結果、火力発電所の燃料使用量を減らすことができ、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素の排出量を抑制できます。

これまでに我が国では22基の原子力プラントで定格熱出力一定運転が実施されています。

以 上

（添付資料）

「志賀原子力発電所第1号機 定格熱出力一定運転実施に伴う発電設備の健全性評価書の概要」

「志賀原子力発電所第1号機 定格熱出力一定運転実施に伴う
発電設備の健全性評価書の概要」

「志賀原子力発電所第1号機 定格熱出力一定運転実施に伴う発電設備の健全性評価書」では、以下の評価を実施しました。

(1) 蒸気タービンによる原子炉施設への影響評価

定格熱出力一定運転を実施しても蒸気タービンの設計最大出力を超えることはありませんが、仮に設計最大出力で運転した場合に蒸気タービンが破損して原子炉施設に影響を与えないかを検討しました。

この結果、原子炉施設への影響を考慮しなくてもよいとするこれまでの評価結果を変更する必要はないことを確認しました。

(2) 蒸気タービン設備の健全性評価

上記設計最大出力での蒸気タービン設備の強度や调速装置の性能に問題が生じないかを検討し、安全上問題がないことを確認しました。

(3) 電気設備の健全性評価

設計最大出力での電気設備（発電機、変圧器）の健全性に問題が生じないかを検討し、運転制限の範囲内で問題なく運転できることを確認しました。

以上